

# ゼミ履修のために

## 1.「ゼミは履修した方がいいの？」

キャリアデザイン学部では、ゼミは必修科目ではありません。  
つまり、ゼミを履修しなくても卒業はできます。

だからこそ、「とりあえず履修しておこう」と安易に決めるのではなく、  
「ゼミで何を学ぶのか」「自分は何を得たいのか」を考えてほしいと思います。

ゼミの内容や進め方はさまざまで、人によって得られるものも違います。  
研究に集中したい人もいれば、実践や仲間との協働を重視する人もいるでしょう。

それでも、多くのゼミに共通していることがあります。  
「自分の頭で考え、自分の責任で行動する力」を育てる場であるということです。

社会に出れば、指示通りに動く力も必要です。  
しかし、状況を読み、自分で考えて動く力はそれ以上に大切です。  
その力を育てるトレーニングとして、ゼミは最適な環境です。

ゼミに所属し、自分の関心をもとにテーマを掘り下げてみると  
「知らない」「できない」自分に向き合うこともあるかもしれません。  
それでも、それを避けずに挑戦することで、成長や自信につながっていきます。

ゼミは、大学卒業後にも「学び続ける力」を育てる、かけがえのない場になるはずです。

## 2.「ゼミって、何をするの？」

### (1)ゼミの進め方

- **ゼミ全体で共通のテーマを追究するゼミ**  
全員が同じテーマに向き合い、資料を共有しながら意見を交わし、知見を深めていきます。共通の基盤をもとに議論が進めやすいスタイルです。
  - **大きなテーマを複数のサブテーマに分け、グループごとに研究するゼミ**  
全体としての一貫性を保ちながらも、各グループが独自の視点で深掘りを行うスタイルです。他グループとの対話を通じて視野を広げることができます。
  - **学生各自が個別のテーマを設定し、それぞれが追究するゼミ**  
自由度が高く、自分の関心に従って探究を進めることができます。ただし、自律性や自己管理能力がより強く求められます。
- 

### (2)ゼミの内容

- **文献の講読**  
理論的背景や先行研究の理解を深めるために、文献(本や論文など)を精読し、要点をまとめ、議論する活動が中心です。
- **量的調査などデータの収集・分析(アンケートなど)**  
統計手法を用いたデータ処理や、社会調査の設計と実施など、実証的なアプローチが重視されます。パソコン教室で Excel や統計ソフトを使うこともあります。
- **質的調査などデータの収集・分析(インタビュー、観察など)**  
対象者の語りや行動を丁寧に拾い上げ、解釈を通して深層にある意味や構造を読み解きます。
- **体験活動・実践活動とその記述・分析**  
フィールドワークやプロジェクト実践を通じて得られた経験を、記録し、分析し、理論的に位置づけることに重点を置きます。

### (3)ゼミのスタイル

- **2～4年生が合同で学ぶゼミ(常時／一部)**  
異学年交流を通じて、学び合いや縦のつながりが育まれます。先輩からの学びも多く、実践的な雰囲気が強まります。
- **学年ごとにゼミを分けて行うゼミ**  
学年ごとの活動が無理のない進行ができる一方で、学年を超えた交流は少ないスタイルです。
- **教員主導型のゼミ／学生主体型のゼミ**  
教員がテーマや進行を主導するスタイルもあれば、学生が企画や運営に大きく関わるスタイルもあります。
- **ゼミ論や卒論の有無**  
3年次でゼミ論(研究報告)をまとめたり、4年次に卒業論文を必須としているゼミもあります。
- **合宿や課外活動の有無**  
夏や春に合宿を行うゼミもあり、集中的な議論や共同作業を通じて学びと関係性を深める場となっています。

---

このように、ゼミの形態や内容は本当にさまざまです。一方で、すべてのゼミに共通していることが2つあります。

- **ゼミは主体的な学びの場であること**
- **学びの深さは、自分の姿勢・関わり方によって大きく左右されること**

ゼミでの学びは、受け身で「教えてもらう」だけのスタイルでは成り立ちません。自ら問いを立て、考え、調べ、議論し、まとめる。そのすべてに自分自身が関わることで、学びは深まります。

時間割の枠を超えて活動が行われているゼミもあります。学生だけで企画・運営する「サブゼミ」を別途設けているゼミもあります。活動の実態や内容は、必ず各ゼミの募集要項で確認してください。

加えて、多くのゼミでは、4年次に卒業論文の執筆が求められます。卒論は、調査対象者との関係構築、先行研究との区別、情報の扱い方といった、研究倫理に基づく実践的な学びの場でもあります。

### 3.「どうやってゼミを選んだらいいの？」

#### (1)避けたい選び方

- その1:「友だちと一緒に入れそうだから」  
→ ゼミは仲良しグループではなく、学びの場です。
- その2:「どこでもいい。とりあえず入っておこうと思って」  
→ そのような気持ちで参加すると、ミスマッチにつながることがあります。
- その3:「〇〇ゼミは就職に有利らしい」  
→ 所属するだけでなく、どのように取り組むのかという視点を持ちましょう。
- その4:「楽しそうなゼミだな」  
→ そのゼミが、自分の関心と本当に合っているかを見極めましょう。

それでは、どのような選び方が望ましいのでしょうか？

それは、「これまで自分が何を学んできたか」をふり返し、「今後どのような専門性を高めたいか」「どんな力を伸ばしたいか」を見据えながらゼミを選ぶことです。

---

#### (2)理想的な選び方

ゼミ選びの出発点は、「募集要項」を丁寧に読み比べることです。

- 少なくとも、希望する分野についてはすべて熟読しましょう。
- 関心分野以外も含めて広く目を通すことも、新たな発見につながります。
- いくつかの候補をピックアップし、テーマや進め方、教員の考え方などを比較してみましょう。

次のような情報が記載されています。

- 教員の専門領域
- ゼミの研究テーマ
- ゼミの運営スタイル(進め方や頻度など)
- ゼミ生に求められる姿勢や条件
- 開講時間(時間割外に活動がある場合もあります)

### (3)教員とゼミの実態を知る

#### 【ゼミ教員はどんな人物か】

1. 専門の授業を受講する  
関心のある教員の授業を履修してみましょう。
2. 『キャリアデザイン学部履修の手引き』の教員紹介を読む  
「学部専任教員」紹介で、専門領域や経歴が確認できます。
3. 法政大学学術研究データベースを検索する  
法政大学 HP「研究」→「学術研究データベース」 ※研究テーマなどが分かります。
4. 著作・論文を調べて読む  
データベースで興味のあるゼミの教員の名前で検索してみましょう。
  - [Google Scholar](#)
  - [CiNii](#)
5. 教員の HP・SNS・ブログなどを参照する  
教員やゼミによっては、情報発信を積極的に行っています。
6. 直接相談してみる  
質問がある場合は、メールやアポイントを取って相談してみましょう。募集要項に詳細が記載されている場合もあります。

#### 【ゼミは実際にどのように運営されているのか】

1. ゼミ見学に参加する／ゼミの先輩に話を聞く  
開催形式や日時はゼミごとに異なります。ゼミを見学し、ゼミの先輩にも機会があれば話を聞いてみましょう。
2. 各ゼミの「卒業論文要旨集」を読む  
ゼミごとにpdfでまとめられています。「そのゼミではどんな卒論を書いているのか」は極めて重要な情報です。専門的な手法や同一テーマが強調されているゼミもあれば、学生の幅広い関心を受け入れているゼミもあります。
3. ゼミの成果物を読む  
共同研究の成果などを冊子にまとめているゼミもあります。関心があれば教員に問い合わせてみてください。

## 4.「選考に外れたらどうしよう…」

### (1)選ぶ側の視点を意識して志望理由を書く

ゼミ選考は、あなたが応募先(ゼミ)を選ぶと同時に、あなた自身が教員から選ばれるプロセスでもあります。就職活動と同じ構造です。

そのゼミに本気で入りたいなら、**選考する側の視点を意識して志望理由を書くことが重要**です。形だけの志望理由や表面的な動機は、すぐに見抜かれてしまいます。

「そのゼミを知るために、どんな努力をしたか」も、志望理由から読み取られるものです。

選考に外れたくないのは誰もが同じです。だからこそ、**自分の思いや行動が相手に伝わるように、最善の準備と努力**をしてください。

選ぶ側(教員側)から「これなら、うちのゼミじゃなくて、他の先生のゼミでもできるな」と思われないような志望理由があるか考えてみてください。

---

### (2)第二希望・第三希望の準備もしておく

どれだけ第一希望のゼミに強い思いを持っていても、選考の結果は常に思い通りにいくとは限りません。これは、どんなに志望理由を丁寧に書いたとしても、応募者数の多さやゼミの定員など、**自分ではどうにもならない要素があるから**です。

だからこそ、万が一に備えて、**第二希望・第三希望のゼミについてもあらかじめ関心を持ち、情報収集**をしておくことが大切です。一次選考に落ちてから慌ててゼミを探し始めるのでは、情報の質も浅くなりがちですし、自分に合ったゼミをじっくり選ぶことも難しくなります。

第二希望・第三希望のゼミを選ぶ際にも、第一希望と同様に、「自分の学びたいこととどう関係しているのか」「自分の成長にどうつながるか」という視点を持ちましょう。ただの「保険」として候補を挙げるのではなく、「もしこのゼミに進むことになっても納得できる」と思える選択肢を事前に用意しておくことが、大学生活を充実させるカギとなります。

また、**第二・第三希望のゼミに応募する際にも、志望理由が問われる可能性があります**。一次希望とどのように関係があるのか、自分の中でどう納得しているのかも含めて説明できるように、整理しておくといでしょう。

## 5.「志望理由って、どう書くの？」

### (1)課題・指示に忠実に答える

多くのゼミでは、志望理由に対して「書くべき内容(課題・指示)」が示されています。その課題や条件に正確に、丁寧に答えることが大前提です。

たとえば、「①関心のあることを疑問形で書くこと」「②その疑問がなぜ重要だと思うのか、自分の考えを書くこと」という課題があるにもかかわらず、以下のような内容では不十分です。

「私は〇〇に関心があります。高校時代から△△のボランティアに関わっており、その体験を通じて……」

このように、与えられた問いに答えず、自分語りだけで終わっているものは評価されません。

まずは、課題を読み込み、的確に答えること。それが第一歩です。

---

### (2)読み手の視点に立つ

あなたの書いた志望理由には、読み手＝教員がいます。

教員は、あなたをゼミの一員として受け入れるかを判断する立場にあります。つまり、就職活動での志望理由書やエントリーシートと同じように、相手視点で書くことが求められます。

「自分が教員だったら、どんな志望理由を読みたいと思うだろう？」

「この学生と一緒にゼミ活動をしたいと思えるだろうか？」

このような視点で考えを深めながら文章を構成してください。

### (3) 志望理由の控えを保存する

一次募集で希望するゼミに通らなかった場合、二次募集に応募することになります。その際、教員は次のような点に関心を持っています。

- 一次ではどのゼミに、なぜ応募したのか？
- それと今回の応募先とは、どのようなつながりがあるのか？

そのため、次のような対応が求められる場合があります：

- 一次応募時の志望理由のコピーを提出する
- 一次と二次での志望理由の違いや関連について記述する

なお、申請フォームへの入力内容は、自動的に Gmail に送信される仕組みになっています。必ず控えを保存しておきましょう。

---

### まとめ

- ✓ **ゼミは「自分の頭で考え、自分の責任で行動する力」を育てる場**
  - 単位取得のためではなく、思考力・実行力を鍛える実践の場です。
- ✓ **「とりあえず」で選ばず、自分の関心や成長につながるゼミを選ぶことが重要**
  - 学びたいテーマを明確にし、それに合ったゼミを見極めましょう。
- ✓ **ゼミの学びは、受け身ではなく主体的な姿勢が前提**
  - 自ら問いを立て、調べ、考え、議論し、発信することで深い学びに。
- ✓ **志望理由は、教員の視点を意識して丁寧に書くことが合否を分ける**
  - なぜそのゼミなのかを明確に伝えるように工夫しましょう。
- ✓ **ゼミでの挑戦と経験は、将来のキャリアにもつながる**
  - 調査・執筆・共同作業などの経験は、社会に出た後にも力になります。